

Amazing Thailand

旭川市医師会
市立旭川病院

むらかみ たつや
村上 達哉

微笑みの国、タイ。政治経済文化の中心であるバンコクをはじめ、チェンマイやアユタヤなどの古都・史跡、パタヤ、ホアヒン、プーケットなどのビーチリゾートも豊富で、世界から観光客を引き寄せる。一時タイ入国に際してPCR陰性証明の提示や入国後の隔離などがあったが、今はそれらもすべて撤廃され、コロナ禍以前の状態に完全に復帰した。閑散としていた観光地にも欧米人を中心に観光客が戻り始めているという。年間を通じて最高気温が30℃を超え、山岳部を除いて寒さの心配はまずない。でも日本と違って四季がないよねとタイ人に言うと、いやちゃんとあるよと。hot, hotter, hottest, super hotだと教えてくれた。

私はタイには特別な思い入れがある。それはタイに特別な友人がいるからだ。私は医師になってから通算5年間アメリカに留学し、後半の3年間を心臓外科の臨床研修に充てた。最初の2年をオレゴン州ポートランドで、後の1年をミネソタ州のメイヨークリニックで研修した。ポートランドでは心臓外科医6～8名、PA数名、それに外国人フェローらで年間1,500例の開心術を行っていた。外国人は中国、インドが多く、たまに韓国、日本、中東、ヨーロッパなどから不定期で集まってくる。私が働き始めて数か月経ち、仕事にも慣れ始めた頃、タイから一人のフェローがやってきた。私より5～6歳上で人懐っこい性格であり、すぐに打ち解けた。ある日曜日、非番だった私のポケットベルが突然鳴った。臨時手術があっても非番ではまず呼ばれることはない。電話してみると、当直のタイ人からだった。当直業務の内容がよくわからないから教えてくれと。新人にはチーフフェローが基本を教えることになっていたが、いい加減なレバノン人は何も伝えていなかったらしい。電話では無理なので、すぐに病院に直行し、業務内容を事細かに説明した。タイ人はこの恩は一生忘れないとばかりに何度も何度も私に手を合わせてきた。ところが、である。それから1週間も経たないうちに、彼は忽然と姿を消した。中国人らは「彼はきっと何かへまをやって解雇させられたのだ」と噂していた。

それから9年ほど経った2006年のある日、パキスタンから学会案内メールが届いた。それには世界中の心臓外科医の名前とメールアドレスが宛先として記載されていた。試しに自分の名前を検索してみた。いつもなら行きもしない学会の案内なんて

すぐにゴミ箱に捨てるのだが、この時はマウスの動きが自然に止まった。なぜなら、私の名前のすぐ下にtaweesakで始まるアドレスを見つけたからだ。「Taweesakってあのタイ人だろうか」記憶は曖昧で、名前も正確には覚えていない。試しに二人にしかわからない情報を入れてメールしてみた。すると、1時間もしないうちに返信があった。やはりあの彼だった。彼も私のことをずっと探し続けていたという。当時母親が急病にかかり、すぐに帰国しなければならず仲間に挨拶する暇もなかったと。解雇ではなかった。しばらくメールでの文通が続いた後、彼は2010年日本胸部外科学会に講師として招待され、ついに大阪の学会場で涙の再会を果たしたのだった。毎晩飲みに行き、思い出話に花を咲かせたのは言うまでもない。彼は私が知らない間に世界的な心臓外科医に成長していた。少なくともアジアでは5本の指に入る。彼はタイ外科学会の会長を歴任し、政治家の心臓手術も手がけ、世界中を飛び回っている。

再会以来、義理堅いことに彼は自分の病院が主催する学会やライブ手術に私を毎年のように招待してくれた。学会には世界から著名な心臓外科医が集められ、私も「Taweesakの友達」として多くの先生方と親しくなれた。世の中は狭いもので、その中にはメイヨー・クリニックで一緒だったオーストラリア人や、ポートランドで師事した先生とパリで一緒に働いたことがあるというフランス人も含まれる。その縁で二人をTaweesak先生と共に大学医局で主催した全国学会に招待した。

何度もタイを訪れるうちに、私はタイにすっかり魅了されてしまった。まず、物価や生活費が安い。円安と物価高の影響で以前ほどの割安感はないが、それでも日本で生活するよりはかからない。贅沢をしなければ日本の年金だけで十分暮らせるという話もある。さらに、食事がおいしい。最近ナンプラーを手に入れ、レシピを見ながらカオマンガイやガパオライスを作り始めた。タイの最新情報はYouTubeが頼りだ。日本とタイのハーフであるTJさんがやっているTJ channelは私のお気に入り。

私はあと数年で定年を迎える。定年後の計画はまだ白紙の状態。ただ、頭の中では日本とタイでの二重生活を思い描いている。11月から3月までのタイは乾期で晴天続き。4月からは極暑、続いて雨期に入る。つまり、乾期をタイで過ごし、残りを日本で暮らせば寒い冬を避けることができる。さて夢の計画をどのように家族に伝えたらよいのだろう。手術のICのように、同意が得られるだろうか。少なくとも「すべてお任せします」とはならないだろうな。